

平成15年度 地域リハビリテーション課題調査結果

平成15年度、県内4医療機関のご協力をいただき、脳卒中で入院し、リハビリテーションを受療した方を対象に、1年後の状況調査を行いました。その結果の一部をここでご紹介させていただきます。

調査の概要

- 1 調査時期；平成15年10月～平成16年1月
- 2 調査対象及び方法；
 - 1) 所在調査（一次調査）
 - ① 対象者；脳卒中を発症して急性期から入院し、入院中にリハビリテーションを受けた者で、平成13年10月1日から平成14年9月30日の間に協力医療機関を退院した者
 - ② 方 法；往復ハガキを使用した郵送法による自己記入式調査
 - 2) 本人の現状把握調査（二次調査）
 - ① 対象者；一次調査で自宅に退院し、かつ、現在も自宅にいると回答があった者
 - ② 方 法；郵送法による自己記入式調査
 - 3) 協力医療機関保存資料に基づく対象者の状況把握（三次調査）
 - ① 対象者；一次調査及び二次調査回答者
 - ② 方 法；医療機関保存資料から調査票への転記調査

調査結果から

今回は、二次・三次調査の結果からご紹介いたします。

区分		退 院 時						不明
		計	自立	ランク J	ランク A	ランク B	ランク C	
計	数	94	31	21	13	7	1	21
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
自立	数	33	18	5	2			8
	%	35.1	58.1	23.8	15.4			38.1
現	数	28	10	8	5			5
	%	29.8	32.3	38.1	38.5			23.8
在	数	20	3	5	3	3	1	5
	%	21.3	9.7	23.8	23.1	42.9	100.0	23.8
ラン	数	6			3	1		2
	%	6.3			23.1	14.3		9.5
ン	数	2				2		
	%	2.1				28.6		
ク	数	5		3		1		1
	%	5.3		14.3		14.3		4.8

退院時に医療機関が判断した「障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）」のレベルより、現在の寝たきり度が悪化している者は、全体の24.5%いました。また、寝たきり度が退院時に「自立」であった方のうち、41.9%の方に寝たきり度の悪化が見られました。

このことから、医療機関が退院時に障害がなく自立した生活を送れると判断された方であっても、1年後である「現在」は、外出等には何らかの障害があることが分かります。

※ ■ は、悪化群……23名（24.5%）

※ ■ は、改善群……16名（17.0%）

また、生活の状況を見ると、発症前には仕事や家庭での役割、趣味があった方でも、発症後、なくなった方が多く見られました。

このことは、直接、寝たきり度の低下に結びつくとは言えませんが、障害を持って、より活動的な生活を送るためには、日常生活動作以外の趣味や社会的な役割など、生きがいや退院後も継続していくための支援が必要であると感じました。

